

岩手日日新聞 平成27年2月14日

## 防災意識より高く

### 大東中一年生 ジュニア検定に挑戦

災害から命を守る防災教育の一環として、一関市立大東中学校（遠藤宗俊校長、生徒152人）の1年生46人は13日、県内の公立学校では初となる「ジュニア防災検定」の検定テストに臨み、東日本大震災を教訓に自然災害への備えと防災意識を新たにしました。

この検定は、小中学生の防災力を高めてもらおうと一般財団法人防災検定協会が主催。筆記による検定テストのほか、防災について家族で話し合ったことをレポートにまとめる事前課題、防災をテーマに自由研究に取り組む事後課題の3ステップから成る。

同校は、被災地の復興を応援する大塚商会ハートフル基金を活用して検定に参加。冬休みの課題として事前課題に取り組み、家族で話し合った結果をレポートにまとめたほか、地元の一関北消防署の協力で防災セミナーも開いた。

検定テストは、関東大震災や土砂災害など自然災害の種類や歴史、社会と災害の関わりなどが出題される。生徒たちは真剣な面持ちで問題に取り組み、解答を記入していた。検定ではテストのほか、レポートや自由研究を総合的に評価して可否を決定し、合格者には証書やバッジが贈られる。

佐藤友治君は「東日本大震災を経験しているので、セミナーで学んだことや命の大切さを考えながら解答を書いた」、佐藤彩花さんは「家族と防災について話し合うことができたので、災害に遭ったらこのことを生かして行動したい」と話し、防災への心構えを新たにしていた。

同校では、自由研究が主となる事後課題を防災学習のまとめに位置付けており、「検定が防災学習の第一歩となり、生徒の防災意識の高揚につながれば」と期待している。